

News Release



本資料は、2011年2月24日にドイツで発表された2010年決算発表資料の翻訳版です。

2011年2月25日

BASF、2010年(1月～12月)の業績を発表 2011年も好調の見通し

お問い合わせ：
BASF ジャパン株式会社
水谷 あゆみ
TEL: 03-3796-4863
FAX: 03-3796-4111
ayumi.mizutani@basf.com

- 2010年の業績は過去最高
 - ー 売上高は639億ユーロ(約7兆4,300億円、前年比26%増)
 - ー 特別項目控除前 EBIT は81億ユーロ(約9,420億円、前年比68%増)
 - ー 1株当たり利益は4.96ユーロ(223%増)
- 化学品事業は、強力な景気回復を反映
- コグニスの買収により、消費者志向の革新的なビジネスを獲得し、ポートフォリオを強化
- 2011年の見通し: 大幅な増収増益を見込む

BASF(本社:ドイツ ルートヴィヒスハーフェン)はこのほど、2010年の業績を発表しました。BASFにとって、2010年は過去最高の業績を達成した1年となり、リーディングカンパニーとしての地位の拡大という目標についても、さらに前進しました。

- チバの業務統合およびコグニスの買収を通じ、BASFのポートフォリオは、さらなる強化を実現しました。スチレン事業については、INEOSのスチレン事業との統合によって、付加価値を創造する合弁会社STYROLUTION社を設立し、大きく前進しました。
- 成長市場への投資例としては、中国・南京の統合生産拠点(フェアブント)のさらなる拡張と、マレーシアの特殊化学品工場建設計画が挙げられます。

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒106-6121
東京都港区六本木6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21階
TEL: 03-3796-4863
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

- BASF は、研究開発投資をさらに拡大することで、将来にわたる安定的成長を確かなものとします。

今回の好業績は、BASF の継続的な発展を反映しています。これは、資本市場からも評価されており、BASF の株価は、2010 年 12 月に史上最高値に到達したほか、年間を通じて 37%以上上昇しました。配当金の再投資を含めると、上昇率は約 43%となりました。BASF の株式は、世界の株式市場を上回るパフォーマンスを示しました。

BASF の年次記者会見において、BASF 取締役会会長のユルゲン・ハンブレヒトは、「2010 年には、売上高・利益ともに過去最高を達成しました。中でも、化学品事業については、2010 年の強力な景気回復の波に乗ることができ、これは BASF の当初の予想を上回るダイナミックなものでした」と述べています。

売上高の 2 桁成長には、世界各地域の好業績が貢献しました。2010 年の売上高は、前年同期比 26 %増の 639 億ユーロ(約 7 兆 4,300 億円)でした。特別項目控除前 EBIT は、68%増の 81 億ユーロ(約 9,420 億円)でした。また、2010 年も資本コストを上回る利益を再度達成し、過去最高の 35 億ユーロとなりました。

2010 年第 4 四半期のビジネス環境も良好に推移しました。売上高は、前年同期比 25%増の 164 億ユーロで、これは 2010 年で最高の四半期でした。しかし、特別項目控除前 EBIT は 18 億ユーロにとどまり、前年同期の水準を下回りました。この理由としては、以下が挙げられます。

- BASF の年末株価の大幅な上昇に伴う、長期的なインセンティブ・プログラムを対象に、引当金が増加したこと。
- 過去 2 年間の従業員による素晴らしい危機管理活動を評価し、全世界の従業員に支払われる特別報奨金 5,000 万ユーロを引き当てたこと。

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-4863
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

- 2011 年に向け良好なスタートを切るための、各事業部門の保守・事業再編の促進に係わる一時コストが発生したこと。

全体的には、2010 年第 4 四半期で 2 億ユーロを超える一時コストが発生しました。ハンブレヒトは、次のように述べています。「BASF は 2011 年、極めて好調なスタートを切りました。しかし、リビアの情勢は当社の懸念事項となっています。全体的には、第 1 四半期と通年の見通しは楽観的です。これに伴う良好な結果のひとつとして、BASF の従業員数は、2011 年を通じて約 2,900 人増加する見込みです。中心となるのはアジアですが、ドイツでも 800 人の新規雇用を計画しており、うち約 500 人がルートヴィヒスハーフェンの拠点到勤務します」。

2011 年通年の見通し

BASF の 2011 年の見通しは以下の経済予測に基づいています。

- 世界経済の堅調な成長(+3.3%)
- 世界の化学品生産が大幅に成長(製薬を除く)(+5.2%)
- ユーロ/ドルの平均為替レート:1 ユーロあたり 1.35ドル
- 2011 年の年間平均原油価格:1 バレルあたり 90ドル

BASF は、2011 年も、2010 年に達成した過去最高の売上高と利益を凌駕することを目指しています。ハンブレヒトは、「2011 年も再び資本コストを上回る利益を達成できる見込みです」と述べています。リビアに関しては、早期に状況が沈静化することを願っています。

部門別業績: 化学品事業が大幅に成長

「化学品部門」では、販売価格の上昇と販売量の増加により、売上高は 2009 年の水準を大きく上回りました。一部の製品では、一時的な供給不足もありました。原材料価格の高騰の大半は、販売価格に転嫁することができました。こうした動向からとりわけ大きな恩恵を受けたのが、石油化学品事業本部でした。基礎製品を中心とした利益率の上昇と販売量の増加により、同部の EBIT は大幅に増加しました。

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所: 〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-4863
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

「プラスチック部門」の売上高も、前年比で大幅に増加しました。主要顧客の業界での景気回復に伴い、需要は著しく回復しました。中でも、自動車業界は、予想以上に早く回復しました。プラントの設備稼働率は良好でした。ポリウレタン事業本部の販売価格は概ね安定を維持しましたが、原材料価格の高騰などにより、ポリマー事業本部の販売価格は上昇しました。利益率は概ね安定しており、EBIT は大幅に上昇しました。

「高性能製品部門」は、景気回復に加えて、チバの統合と両社の事業再編が短期間で成功を収めたことが貢献しました。2010 年上半期を中心に、バリューチェーン全体で在庫補充が発生したことなどにより、すべての事業本部で、需要と売上高が拡大しました。2009 年は、チバの統合によって発生した特別項目が同部門の利益にマイナスの影響を及ぼしましたが、2010 年には、固定コストを削減し、シナジー効果を実現するための措置によって、EBIT が大幅に上昇しました。

「機能性化学品部門」の売上高は、販売量と販売価格の増加に伴い 2009 年の水準を大幅に上回りました。触媒事業本部と塗料事業本部での販売量と売上高の増加の主な理由としては、自動車業界からの需要拡大が挙げられます。しかし、建設化学品事業本部では、さほど大きな増収は見られませんでした。厳格なコスト管理と効率化に向けた措置により、3 つの事業本部すべてが、部門の EBIT の大幅な上昇に著しく貢献しました。

「農業関連製品部門」の売上高は、前年の極めて好調な水準を大幅に上回りました。殺虫剤、除草剤、殺菌剤の販売量は、前年を上回りました。販売価格の低下は、取引量の増加と為替差益によって相殺されました。販売費と研究開発費の上昇にも関わらず、EBIT は、ほぼ安定していました。

「石油・ガス部門」の売上高は、前年比で減少しました。減収の理由は事業によって異なり、探査・生産事業では、リビアでの OPEC の生産制限などを理由に販売量が減少しました。しかし、これは、原油価格の高騰と米ドル高

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所：〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-4863
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

によりほぼ全面的に相殺されました。天然ガス取引事業では、販売量は増加したものの、ガス価格の下落により、売上高は減少となりました。こうした減収にも関わらず、同部門の EBIT は微増となりました。

「その他」に分類される事業の売上高は、スチレン事業の販売価格と販売量の増加などにより、大幅に増加しました。しかし、EBIT は、長期的なインセンティブ・プログラムの費用上昇を主な理由に減少しましたが、為替の好影響と、スチレン事業の利益の上昇により、一部相殺されました。

地域別セグメント情報： 世界全地域で増収を達成

「欧州地域」の売上高は、前年から 16%増加し、352 億ユーロでした。化学品事業の売上高は、経済危機以前の水準をも上回る 194 億ユーロでした。2009 年との比較では、32%の増加となります。これは、BASF が経済危機を克服し、欧州では以前にも増して強力な企業に成長したことを示すものです。EBIT は 52 億ユーロで、前年の 2 倍以上となりました。これは主に、化学品事業での極めて高い利益によるものです。

「北米地域」の売上高は、41%増の 132 億ユーロで、現地通貨建てでは 34%増となりました。ほぼすべての部門において、販売量と売上高が前年から大幅に上昇しました。2010 年の EBIT は、過去最高の 11 億ユーロに到達し、前年比では 6 億 400 万ユーロ増となりました。

「アジア太平洋地域」の売上高は、46%増の 116 億ユーロで、現地通貨ベースでは 35%増となりました。売上高は、化学品事業を中心に、すべての事業で増加しました。EBIT は、前年から 7 億 6800 万ユーロ増加し、過去最高の 13 億ユーロに達しました。アジアは、以前にも増して、BASF の成功に安定した貢献を果たしています。

「南米、アフリカ、中東地域」の売上高は、2009 年の水準を大幅に上回り、31%増の 38 億ユーロとなりました。現地通貨建ての場合、売上高は 2009 年から 19%増加しました。EBIT は、前年比 1 億 400 万ユーロ減の 1 億

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所：〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-4863
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>

7700 万ユーロでした。これは主に、長期供給契約に関連した売掛金の評価調整に関する一時費用によるものです。

注記： 1 ユーロ=116.24 円(2010 年の期中平均レート)で換算

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標榜する世界の化学業界のリーディングカンパニーです。製品ラインは、化学品、プラスチック製品、高機能製品、農業関連製品、ファインケミカル製品、石油・ガスと多岐にわたっています。BASFは信頼に応えるパートナー企業として、化学を通じあらゆる産業のお客様のさらなる成功を支援しています。また、高付加価値製品と高度なソリューションの提供により、気候保全やエネルギー効率の向上、栄養、交通・運搬環境の改善といった世界的な課題の解決に重要な役割を果たしています。2010年の売上は約639億ユーロで、従業員数は約10万9,000人です。BASFの詳細な情報は、www.basf.com (英語)、newsroom.basf.com (英語)、www.japan.basf.com (日本語)をご覧ください。

■日本の BASF について

BASF は日本では 1888 年に事業を開始いたしました。国内では、BASF ジャパンと 6 社の関連会社で構成されています。事業活動は、化学品、プラスチック、機能性化学品、高機能製品、農業関連製品の 5 分野です。主要生産拠点は三重県四日市市(熱可塑性ポリウレタン、ポリマーディスパージョン)と、神奈川県茅ヶ崎市(コンクリート混和材、建設化学品)と横浜市戸塚区(塗料)です。「グレーター名古屋テクニカルセンター」(三重県四日市市)内には、製紙薬品、顔料、機能性ポリマー(ディスパージョン)、エンジニアリングプラスチック、および燃料電池向けの応用研究所があり、日本とアジア市場のお客様をサポートしています。尼崎研究開発センターでは、日本のお客様へのテクニカルサービスと、さらに先端技術産業のテクノロジーリーダーに近いという地理的利点を活かし、エレクトロニクス分野に特化した研究開発を行っています。特に「ディスプレイ」、「エナジーマネージメント」、「マイクロエレクトロニクス」の分野にフォーカスし、日本発のイノベーティブで、グローバルな製品の開発を目指しています。2010 年の BASF の日本での売上は 1,960 億円(16.9 億ユーロ)、従業員数は 1,700 人です。

BASF ジャパン株式会社
コーポレート・コミュニケーションズ
住所：〒106-6121
東京都港区六本木 6-10-1
六本木ヒルズ森タワー21 階
TEL: 03-3796-4863
FAX: 03-3796-4111
<http://www.japan.basf.com>